



●発行 2021.12.15. NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所

●発行責任者 川岸卓哉

## ■1号機に看板設置 「市民による、市民のためのエネルギー革命」

理事 高橋 喜宣

去る2021年11月15日、1号機のあるマンションの植栽のところに畳1畳ほどの看板を設置しました。



「ここはNPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所1号機です。2015年1月からマンション屋上の屋根をお借りし、太陽光発電所を設置して発電しています」と紹介し、「原発を止めるために自分たちでできることを分かりやすい形にしたい、という思いが集まりました」という当法人の主張もまとめています。

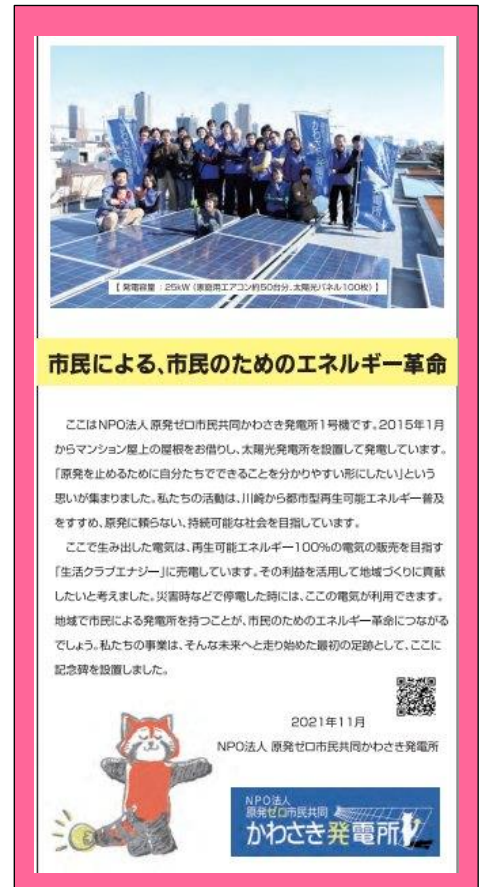
### ■再エネ先進国ドイツでも、1990年代後半には否定意見が大勢

ドイツでは、2021年上半期、純発電量に占める再エネの割合が47.9%に達しました（Fraunhofer ISE）。しかし、始めはこうした状況を誰も予想していませんでした。1994年10月に連邦環境大臣に就任したメルケルも、演説の中で「再生可能エネルギーの上限は4%にすぎない」と口にしたほどでした。また、1993年初頭に、電力各社は、「再生可能エネルギーには将来性がない」というネガティブキャンペーンもしていました。

### ■ドイツの「市民による、市民のためのエネルギー革命」を実現

こうした論調の保守党は1998年に敗北し、ドイツ社会党と緑の党の連立政権で大きく変わり、再生可能エネルギーと省エネルギーが優先されるようになったのです。それには市民のアイデアと行動がともなっていました。

やがて、2012年には再生エネ発電設備（陸上風力、太陽光発電、バイオマス）7209万kWの所、市民



### 市民による、市民のためのエネルギー革命

ここはNPO法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所1号機です。2015年1月からマンション屋上の屋根をお借りし、太陽光発電所を設置して発電しています。「原発を止めるために自分たちでできることを分かりやすい形にしたい」という思いが集まりました。私たちの活動は、川崎から都市型再生可能エネルギー普及をすすめる、原発に頼らない、持続可能な社会を目指しています。

ここで生み出した電気は、再生可能エネルギー100%の電気の販売を目指す「生活クラブエナジー」に売電しています。その利益を活用して地域づくりに貢献したいと考えました。災害時などで停電した時には、この電気が利用できます。地域で市民による発電所を持つことが、市民のためのエネルギー革命につながるでしょう。私たちの事業は、そんな未来へと走り始めた最初の足跡として、ここに記念碑を設置しました。



2021年11月

NPO法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所



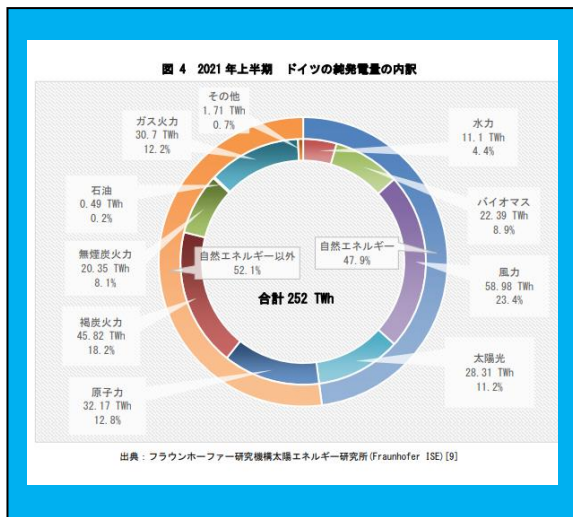
エネルギーが46%を占めるようになったのです。(市民所有25.2%、市民出資11.6%、市民会社・共同組合9.2%)  
 (和田武著「再生可能エネルギー100%の到来、市民パワーの到来 市民パワーでCO2も、原発ゼロに」p47)

### ■デンマークでも、市民パワーで法律も作る

2019年に再エネが国内発電量の50%以上(風力発電が47%、太陽光発電3%)に到達したデンマーク。70年代のオイルショックによって原発建設案が浮上する中、国民的議論で原発を稼働させないで、再エネに舵をとってきました。和田武さんは「最初は100%が住民の発電所でした。世界最初の風力発電は住民の発案で農業機械メーカーに

作ってもらったものです。できると分かるとデンマークでも企業がもうけのために風車を始めたら、地域で反対運動が起きたのです。そして、設備容量の2割以上を地域住民の所有にしないと建設できないよう、政府に法律を作らせました」と語っています。デンマークでも再エネを進めたのは、市民パワーでした。

以上ドイツやデンマークの例のように、2014年設立からの当NPO法人のスローガン「市民のよる、市民のためのエネルギー革命」は決して絵空事ではないのです。



## 《お知らせ》

恒例、バスで巡る「視察学習会」の日程が決定しました！

2022年4月22日(金)～23(土) 群馬県「中之条電力」を視察します。  
 ※コロナ禍の状況によっては延期になるかもしれません。



### ■10/21「再エネ探検」学習会

副理事長 加藤 伸子



10月21日、かわさき生活クラブ生協・環境チーム主催の学習会に国際交流センターへ講師として行きました。『再エネ探検！「でんき」を作っている現場を見に行こう』という企画で、講師は当NPO法人の永田真一氏、参加者は生活クラブの組合員さん。太陽光発電所1号機を見るため、国際交流センターから移動して、3階建てマンションの屋上へ上って太陽光パネルの見学をしていただき、パワーコンディショナーの説明も熱心に聞かれていました。





た。

当 NPO 法人の1号機から4号機の電気は「生活クラブエナジー」に売電しているため、でんきの生産者という運動連携の  
関係にあり、組合員みなさんの当会への関心が高いことをヒシ  
ヒシと感じられました。パワーポイントを使って当会の活動に  
ついて説明させていただきましたが、次々と質問、意見、アイ  
デアが出され、特に、12分間のプロモーションビデオが大好  
評で、「感動した！子どもの小学校でも生徒が見られるように  
したい！」という意見も出  
て、とりあえず組合員が見  
られるようにと、Youtube  
に繋ぐ段取りができた  
た。ほかにも、ご当地電力

として名乗りを挙げたらどうか？というアドバイスもいただき、有意  
義な交流の場となりました。これからも連携を深めていきたいという  
思いを強くしました。



## ■ 10/23 「FEC+W KAWASAKI まつり」に生産者として参加

理事 高橋 喜宣

去る 10 月 23 日、かわさき生活クラブ生協 高津センターで開催された「FEC+W KAWASAKI まつり」に参加しました。川崎市内で Food（食）、Energy・Ecology（エネルギー・環境）、Care（たすけあい）+Work（働く）をテーマに、活動や事業を行う団体が集まる祭りで、毎年開催されています。

私たち NPO 法人原発ゼロ市民共同かわさき発電所は 4 号機すべての電気を「自然エネルギーで脱原発をめざす」生活クラブエナジーに販売しているの  
で、「生活クラブでんき」の生産者として毎回パネル  
出展をしています。



会場では、2022 年 4 月移転予定の「生活リハビリクラブ麻生」の屋上に「自家消費型の発電システム」作ろうと、1 口 1000 円の寄付を集めていました（目標額 450 万円）。同発電所のキャッチフレーズは「太陽光発電で F E C 自給圏づくり」。私たちの活動と共通するものでした。



## ■ 3/13 「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」集会を再開

2012年以來、恒例となっていた中原平和公園での同集会は、新型コロナ禍により、2020年は直前になって中止、21年度はオンライン集会になりました。

最近、急速に感染拡大が沈静化しつつある状況を踏まえ、来年22年は久しぶりに平和公園にて、リアルな集会を予定。現在、開催に向けて準備中です。

先の衆院選挙では残念ながら、またも与党が圧倒的な議席を占めました。原発推進の自民党政権が続く限り、政治的な脱原発の実現は望めそうもありません。

一方、司法による運転差し止めの判決が近年増え始めています。こうした状況から、私は「市民の声と司法の力」で原発を止めていくという流れをつくっていくべきだろうと思っています。

去る21年8月には、日本で初めて原発の運転差し止めの判決を下した、元福井地裁の裁判長、樋口英明さんをお招きしての学習会を開催。「ゆめホール」でYouTubeのライブ配信を兼ねて実施しました。

2022年「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」3.13集会では、海渡雄一弁護士とともに全国各地の原発差し止

め訴訟に尽力されている河合弘之弁護士をゲストにお招きし、司法の力で原発を止める観点からのスピーチを予定しています。

さらに、福島原発事故被災者を決して忘れないよう、3.11以来、福島現地での取材を続けているジャーナリストの青木美希さんのスピーチも続きます。

その他、ステージ、サブステージでの楽しい文化行事や、広場では多くの市民団体によるブース出展、旨い！安い！の多彩な飲食も例年通り。最後は小杉駅に向けてのデモ行進も予定しています。

どうか皆さまの団体も例年通りご参加いただき、展示やリレートークで活動をアピールしてください。

「原発ゼロへのカウントダウン in かわさき」実行委員 背戸柳 勝也（当NPO法人会員）

### 市民の声で原発ゼロへ

**第11回 原発ゼロへのカウントダウン in かわさき**

東京電力・福島原発事故から11年。いまだに3万人以上の方が避難生活を強いられています。事故は収束せず、放射能汚染水処理の新たな問題がでており、現在の技術力では、何十年かかるか全くわかりません。  
気候危機、環境破壊と相まって世界は、火力や原子力発電をやめ、再生可能エネルギーへ大きく舵を切っています。経済の流れも変わりました。原発や火力発電に固執する日本は、完全に取り残され、経済的にも後塵を拝することになるでしょう。  
次の原発事故が起きる前に、私たちの力で全原発を廃炉にさせましょう。






○10:30 開場 市民団体のブース展示、模擬店  
○12:00 音楽・文化行事  
○13:00 メイン集会  
講演 河合弘之弁護士（映画監督）  
青木美希さん（ジャーナリスト）  
市民団体リレートーク  
○14:30 デモ行進

裏面に  
講師紹介

開催日時 2022年3月13日(日)11時～  
**13時～メイン集会 講演会**

開催場所 **中原平和公園**  
JR南武線・横須賀線「武蔵小杉駅」から徒歩約12分  
東急東横線「元住吉駅」から徒歩約8分

参加費 無料 原発ゼロの想いのある方はどなたでも  
主催 原発ゼロへのカウントダウンinかわさき実行委員会  
電話 044-211-0121 川崎合同法律事務所・三嶋健





## ボクと音楽と原発

ボクの初めての原発体験は、広島に住んでいた高校生の時です。音楽好きのギター少年でしたが、物理クラブに所属していて、その企画で島根原発の見学に行きました。放射能は危険という思いはありましたが、その頃は平和利用という言葉にだまされていました。

まもなく、1979年にアメリカでスリーマイル島原発事故が起きました。アメリカ本国ではノーニュークスコンサートが開催され、ミュージシャンのジャクソン・ブラウンをはじめ、大好きなライ・クーダーまでもが原発に反対していることに驚き、ライブレコードも買いました。でもそこまででした。

そして、1986年にはソ連でチェルノブイリ原発事故が起こり、今度は忌野清志郎やブルー・ハーツなど、日本のミュージシャンが声をあげたことに感銘して、CDも買いました。でもそこまででした。

とうとう、日本でも2011年に福島第一原発事故が起こりました。これまでも事故が起こっていたのに、ボクはいったい何をしていたんだろう、核兵器には反対していたのに、原発にはなぜ反対してこなかったんだろう、と自分を責めました。そして、東日本大震災後の気分の落ち込みが落ち着いてきた頃、首相邸前で原発反対の集まりが始まっていることを知り、自分でプラカードを作り、そのような集まりにできるだけ参加してきました。

かわさき発電所との関わりは、1号機のお披露目会で演奏する機会を与えていただいたことです。ピートルズのゲットバックセッションよろしく、屋上の太陽光パネルが並び中、ギターを弾きボクの大好きなワイマナロというハワイの曲を歌わせてもらいました。

コロナ禍で、原発反対と演奏の活動がやりにくくなりましたが、2020年2月には病気で手術を受けたこともあり、心も体も今一つでちょうどよかったのかもしれない。しかし原発はそんなことを言っている状況ではありませんし、演奏活動もバンド仲間と一緒に再開したい思いでいっぱいです。

かわさき発電所の活動には、総会に何度か出席しています。ささやかですが、これからも自分にできることをしていきたいと思っています。

加川 竜 さん（労働者）



## ■NPO 法人 原発ゼロ市民共同かわさき発電所■

ホームページ

<http://genpatuzero-hatuden.jimdo.com/>

フェイスブック

<https://www.facebook.com/genpatuzero.hatuden>

連絡先 TEL 090-7948-6189（川岸）

でん太通信は、ほぼ隔月15日に発行しています。  
今号は5ページでお届けします。

【編集後記】

(加藤伸子)

『川崎市地球温暖化対策推進基本計画』の  
改定案にパブリックコメントを出そう！

●募集期間は、11/26～12/27迄です。

●川崎市ホームページ

<https://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000133741.html>

●意見提出方法は、電子メール、FAX送信、郵送、持参のいずれか。

一言でもOK！ 大勢で関心を示しましょう。

